



## 香川用水の歴史と恩恵を永く後世に伝える公園

# 香川用水記念公園

公益財団法人かがわ水と緑の財団  
香川用水記念公園管理課長 山本洋一

### 香川用水記念公園の沿革

香川県は四国の北東部にあり瀬戸内海に面した日本一小さな県(約1,877km<sup>2</sup>)です。平野と山地が相半ばし、東西に約100km、南北は島嶼部\*を除くと約30kmしかなく、徳島県との県境は標高約1,000mの阿讃山地で区切られています。

瀬戸内式気候のため雨は少なく、河川は流路が短いので降った雨もすぐに瀬戸内海に流れてしまいます。人々は古くから1万4千を超えるため池を築造しましたが、水は常に不足してきました。

戦後「四国は一つ」の理念のもとに吉野川総合開発計画が進められ、香川県の水不足を抜本的に解



香川用水東西分水工(下流より)

消する香川用水が農林省(現農林水産省)と水資源開発公団(現水資源機構)との同時施工で実現したのが昭和49年でした。

その後、10年以上を経過して、香川用水が県外からの分水であるのに、常に流れているのが当たり前になってきました。これではいけないと、県では香川用水の大切さと吉野川の水源地域への感謝を忘れないようにするため、学習施設と公園の整備をすることにしました。

公園は、吉野川の水が香川県内で初めて水面を見せる三豊市財田町にある香川用水東西分水工を取り囲むように、約6ヘクタールの敷地内に、流れ(せせらぎの川)や各種広場を配置し、中核施設として「水の資料館」が整備され、平成9年5月に県立公園として開園しました。



水の資料館

「水の資料館」が整備され、平成9年5月に県立公園として開園しました。

\*島嶼部とは、大小さまざまな島のこと。

### 公園の役割

公園設置の目的については、「香川用水の歴史を後世に伝承し、及びその恩恵に対する県民の認識を

深めるとともに県民に憩いの場を提供する」と県の設置条例に記されています。

香川県では、小学校4年生の時に水の学習の時間が設けられています。「水の資料館」では、香川県の水の歴史を学べる映像やパネル、ジオラマ、実際に使われた道具等が展示され、水の大切さや香川用水の状況も分かりやすく展示されていることから、遠足や校外学習に活用されています。



水の学習の様子

東西分水工が見渡せる水口の広場では、毎年6月11日に香川用水土地改良区により一年の配水の安全と豊潤を祈って「水口祭」が開催されます。神事の最後に土地改良区理事長、県知事や県議会議長、水資源機構吉野川本部長、三豊市長も参列され、幹線水路にお神酒を注ぐと同時に3本の水柱が上がり、その後鍬踊りや獅子舞、太鼓が奉納され、手打ちうどんの接待が行われます。

また、毎年8月第1日曜日には、「水辺の納涼祭」が、中国四国農政局や水資源機構香川用水管理所も出展して行なわれます。阿波踊り等の水源地域との交流も行うイベントで、毎年多くの人で賑わいます。

そのほか四季折々の花が楽しめる花木園、遊具のある花見の広場、自然散策路などがあり、来園者への快適空間を提供しています。



水口祭(3本の水柱)



水辺の納涼祭

### 公園と資料館の利用

公園は1年を通して開放され、「水の資料館」も年末年始と12月から3月までの木曜日以外の日は午前9時から午後5時まで無料で利用できるようになっています。

県内の小・中学校の「香川用水の水源巡りの旅」や校外学習、県外からの視察等で団体利用の場合には、公園を管理する財団や水資源機構において、香川用水の役割から資料館の展示の説明や案内を行っています。

### これからの公園

香川用水は香川県にとって欠くことのできない重要なインフラであり、将来に亘って維持・管理する必要がある施設です。建設から45年以上が経過し、老朽化も進みつつあるので、農林水産省と水資源機構、香川用水土地改良区は施設整備事業等を実施し、良好な維持・管理に多大な努力を払っています。

一方、香川用水記念公園も、開園後22年を経過し、施設も傷み始めており、当財団は県とともに管理に万全を期していく必要があります。

また、水資源の大切さや香川用水の恩恵を県民に伝えていくため、香川県立ミュージアムや香川用水資料館のほか、県の観光施策(うどん県)のサテライト、近隣の観光施設とも連携した広報・企画活動に加え、水の資料館を活用したクイズラリーやパネル展の実施など、より一層の利用促進も求められています。

香川用水記念公園公式サイトはこちらから  
<https://www.mizupark.com/>

